

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域住民の安全・安心なまちづくりプロジェクト			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	関西国際大学		
	活動 グループ名	さんとしょプロジェクトチーム	参加学生 等人数	29 人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	教育学部教育福祉学科		
	責任者氏名	尾崎慶太	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	①潮江社会福祉連絡協議会 ②竹谷社会福祉連絡協議会 ③三和本通商店街振興組合		
	代表者氏名	①会長 藤原靖彦 ②会長 伴公子 ③組合長 藤本一彦	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	本プロジェクトは、尼崎の地域課題に取り組む市民活動団体はんしんワーカーズコープ、活動フィールドの組織団体である三和本通商店街振興組合のほか、見守り活動に取り組む団体との協働活動を通して、ソーシャルワークの基礎である住民主体の観点や人権感覚を養うことを目的とする。潮江地区および三和本通商店街における地域課題の発見から住民と共に解決するプロセスを関連団体と協働して進め、そのなかで多角的・多面的な考え方を獲得し、大学での学びを深化するためのプロジェクトとして展開する			
活動内容及び 実績、評価	<活動内容および実績> 本プログラムは、「地域住民にとっての安全・安心のまちづくり」を基本コンセプトに、主として3年生と2年生の2つのグループに分かれてそれぞれ地域活動を行った。 (1)3年生の地域活動 主として避難行動要支援者にかかる支援計画作成の普及活動のためのリーフレット作成、それに関連する当事者団体への聞き取り調査や大庄元気むらでの防災イベントを実施した。 春学期では、防災学習に取り組むなかで、避難行動要支援の当事者が防災等に関してどのような思いを抱いているのかに着目したため、当事者団体へのインタビューを実施した。秋学期では、インタビューから得られたデータを分析しつつ、引き続き地域活動を行いながら、避難行動要支援者のリーフレットづくりに参画した。そのほか、防災啓発シールの検討、大庄元気むらでの防災イベントを企画実施し、地域への貢献活動を継続的に行った。 (2)2年生の地域活動 2年生は、高齢者、障害者、子どものチームに分かれ、それぞれ潮江地区や竹谷地区を中心に活動を行った。高齢者チームでは、潮江連協、竹谷連協の協力のもと、地域のサロン活動や百歳体操に定期的に参加し、そこに参加する高齢者と積極的な交流を図っていった。また学生が企画するイベントなども実施した。 障害者チームは、社会福祉法人福成会サポートセンターまつばの協力のもと、事業所訪問や地域での物販活動へのボランティアを通して障害者と交流した。そして、三和本通商店街にあるさんとしょで地域交流行事や音楽会なども実施した。			

子どもチームは、三和本通商店街にあるさんとしょを拠点に、図書係をしながら地域の子育て世代と交流していった。そこで得た情報から、夏休みの子どもの宿題サポート企画や放課後の子育て広場を企画運営し、多くの子どもやその保護者に来館してもらった。



2年生の活動については、それぞれの活動成果をまとめ、連携協力団体に向けた活動報告会を実施するとともに、今後の活動についても意見交流を行った。

<評価>

(1) 想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等)

教育福祉学科福祉学専攻では、これまで竹谷地区や中央地区、とりわけはんしんワーカーズコープや三和本通商店街振興組合との関係性のもとで地域活動を行ってきた。また、活動の主たるテーマが子どもやその保護者であった。2023年度は、これまでの活動をベースにしつつも、対象者に限定されない「防災」をキーワードに、3年生、2年生がそれぞれゼミ活動と連動する形で実施した。活動地域も潮江地区、中央地区、竹谷地区に拡張し、さまざまな地域の団体や住民と交流できるようなプログラムへと発展させた。多様な角度から活動できたことは当初の目標通りとなったと考える。今後は、学生が主体的に活動できるような仕組みを整えることが課題になる。

(2) 学生等関わった地域、団体の活動の変化等

上述したとおり、活動地域の各種団体とは年々関係性が深まってきただけでなく、新たな活動地域や地域団体との関係性の構築ができ始めた1年でもあった。これまで活動してきた団体とは、その地域の一員として大学生を受け入れていただいている状況にある。また、新たに連携を築いた地域・団体では、担当教員も積極的に関わったことで、学生による地域活動の理解が深まり、学生らの活動が円滑に進められたと考えられる。地域や受入側も、学生の学びのためということで、様々な機会を用意していただいたり、学生の活動報告会に参加していただき多くの助言をいただいたりするまでに至った。学生-大学-地域、そして行政が一体となって関係を深められている状況にある。

(3) 学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

これまでのプロジェクトの蓄積はもちろんのこと、さらにその先への一歩進めるために、多様な人たちとの交流を通して、プロジェクトを進めていったことで、積極的に活動に参加する様子が多々見られた。過去に同様のプロジェクトに参加した学生の多くが社会福祉士国家試験に合格したり、2023年度の参加学生の中からは、卒業論文としてまとめたという声が出てきたりと、大学での学びにつながる様子がうかがえている。2年生においても、防災に関心の高い学生が多く、防災サークル活動が活発化するという状況もあり、地域での活動によって学習意欲が高まり、さらに地域貢献するという好循環を生み出していると考えられる。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。